

21. その他

- (1) 第1回県川柳大会を県川柳連盟と共催により実施した。参加者は、120名であったが、初期の目的を果たすことができた。
- ① 期日・会場 昭和48年6月3日 県文化センター
 ② 題 ●宿題 広げる、楽しい、土地、記者、橋等
 ●席題 当日 2題いずれも3句吐
 ③ 県川柳賞受賞者 郡山市 利長無双
 ④ 選者 吾妻柳郎、いがり柳王、加藤香風、熊田桜崖、今野空白、後藤蘭人、山中鹿之助、やぶうち三石
- (2) 昭和48年度 文化功労賞(芸術部門)および優良文化団体

若 松 光一郎
 本 籍 地 いわき市常磐湯本町三函 176番地
 現 住 所 いわき市平字旧城跡12番地
 生 年 月 日 大正3年8月8日生(59才)
 職 業 洋 画 家

和紙のもつ柔らかなさを生かし、和紙によるコラージュ(はり絵)の製作に励み、その作品を広く紹介し海外でも好評である。

昭和38年、いわき美術協会を創設、その会長として現在まで後進の指導と会の発展につくした。また、県内の各種委員として県下の美術界、美術教育に長く貢献し、本県美術の向上に尽した功績は誠に大きい。

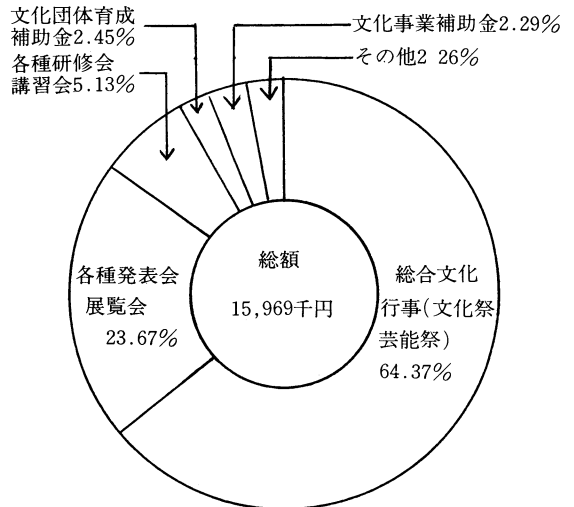
管内名	団 体	代表者名	結成年月日 会 員 数	表 彰 理 由
県 北	福島県 美術協会	山川 忠義	昭和15年6月 会員 150名 予算120万円	1. この美術団体は、昭和5年6月発足以来、幾多の困難を克服して、戦中を除き40余年にわたって公募展を継続して開催している。 2. 本会は、流派傾向にとらわれず、本年41回展を迎えた今日まで、終始公正な立場にたつて運営し、多くの新人育成と中央画壇への輩出につとめた。 3. 協会員は、県下一円にわたっており、それぞれの地域の美術振興にあたっている。また団体としては、県内美術団体の指導的立場にあり、県美展等各種展覧会に尽された功績はきわめて大きいものがある。

- (3) 在京文化人に贈られる知事褒賞は、本年度詩の草野心平氏に贈られた。赤堀信平(46)春日部たすく(47)に次いで3人目である。また、二本松出身日本画家大山忠作氏は、芸術院賞(五百羅漢)会津坂下町出身春日八郎氏は、芸術祭大賞をそれぞれ受賞された。
- (4) 文化庁主催東北地区文化振興会議は7月3日～4日山形市で行われ、県、市、町村文化行政担当者11名出席した。
- (5) 文化庁主催東北地区演劇指導者講習会は、11月15日～16日仙台市で行われ、本県から4名出席した。
- (6) 文化庁主催第13回県展選抜展は、昭和49年2月3日～9日まで東京都美術館で開催され、本県から、日本画 加藤美恵子、洋画 鈴木邦夫、工芸 宗像亮一、書 酒井泰舟

の作品が出陳された。これ等の作品は、本年度の県美展最高賞をとったものである。

- (7) 本年度の文化交流は、FMC混声合唱団の栃木県芸術祭公演し、栃木県交響楽団は、本県の芸術祭で公演した。とくに、田島町における公演は好評であった。
- (8) 市民文化祭の助成については、本年度福島市に交付し、演劇「メナム河の日本人」(劇団雲)を公演し、好評であった。この助成は、補助対象経費(1,500千円)の1/3以内の定額を国、県が補助するものである。今後これが拡大をはかり、地方における文化活動の推進をはかる必要がある。なお、この制度の対象市町村は、人口10万人以上の都市および広域市町村圏の中心都市が設置する文化施設となっている。
- (9) 市町村における文化事業予算については、下記のとおり年々充実の方向にある。

① 昭和47年度事業別決算額調べ
 昭和48年6月30日調査



② 昭和48年度事業別予算額調べ
 昭和48年6月30日調査

